

排ガス浄化触媒にセラミックス

小沢・名工大
教授が提唱

最新の陶磁器研究 発表

多治見



最新研究の成果を発表する小沢教授＝多治見市東町で

多治見、土岐、瑞浪の三市四方所の陶磁器試験・研究機関でつくる「東濃四試験研究機関協議会」と、多治見市旭ヶ丘の名古屋工業大セラミックス基盤工学研究センターの成果発表が六日、同市東町のセラミックパークMINOであり、窯業関係者ら約百人が聴き入った。

(志村彰太)

同研究センターは、四用いた新しい陶磁器開発人の研究者が最新科学をなどを発表。初めに演壇

エコラベル製品提案

東濃4試験協
研究機関協

に立った小沢正邦教授は、自動車の排ガスを浄化する触媒として、従来の白金に代わりセラミックスを応用することを提唱。「白金よりも断然安く、コストは二十分の一だ」と将来性の高さを説明した。

一方、同協議会の「美濃焼マーケティング研究会」は、最近の市場調査を通じて「こだわりと少しのせいたく」「意外性と多様性」などの流行を分析。その上で「エコラベルMINO製品」を提案し、美濃焼のブランド化を進める利点を説いた。

「美濃焼技術研究会」の担当者は「陶磁器に含まれる有害金属の検出試験の報告書を各検査機関で統一した」などと実績を報告。無鉛顔料で絵付けした商品を試作したと発表した。